立命館大学朱雀キャンパス公開講座
シネマで学ぶ「人間と社会の現在」

シリーズ13

父親と発達障がい



この公開講座は、映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。

上映後の対談や講義とあわせて、映画の持つ“時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえば胸騒ぎのする発想”に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。

講座終了後、ロビーにておいしいコーヒーをお出ししております。憩いのひとときと共に、講師や聴講された皆様で交流を深めていただきながら、結論のない、あるいは結論がひとつでない、対話を楽しむ道楽としての「シネマ人間学」をじっくりと楽しんでいただければと思います。

9月15日(土)

ものすごくうるさくて、ありえないほど近い

2011/アメリカ/129分/ワーナー・ブラザース映画 / 監督：スティーブン・ダルドリー / 脚本：エリック・ロス / 出演：トム・ハンクス / トーマス・シェル / サンドラ・ブロック / リンダ・シェル

対談

ゲスト：(調整中)

聞き手：中村　正
（立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授）

10月20日(土)

海洋天堂

2010/ 中国・香港合作 /98 分 / クレストインターナショナル / 監督・脚本：シュエ・シャオルー / 出演：ジェット・リー / ウェン・ジャン / グイ・ルンメイ / ジュー・ユアンアン

対談

ゲスト：薛暁路 氏
（脚本家・映画監督）

聞き手：荒木穂積
（立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授）

12月1日(土)

音符と昆布

2008/ 日本 /75 分 / エビックレコードジャパン / 監督・脚本：井上春生 / 出演：池脇千鶴 / 市川由衣 / 石川伸一郎 / 島田律子 / 宇崎竜堂

対談

ゲスト：井上春生 氏
（映像作家・映画監督・脚本家）

聞き手：谷　晋二
（立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授）

鑑賞料：無料　（別途、資料並びにシネマカフェコーヒー代金300円を頂戴いたします）

時間：13：00 開場　13：30 開演
《対談》15：30 ～ 16：30
（上映時間により多少異なります）

会場 立命館大学朱雀キャンパス 5F 大講義室(ホール)
JR 二条駅、地下鉄東西線二条駅　徒歩 5 分

駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場は公共交通機関をご利用下さい。
満席の場合、ご入場を制限させていただくことがありますのでご了承下さい。

＊朱雀シネマCAFE＊

対談後、会場ロビーにて
おいしいコーヒーを
淹れています！



みなさまと交流を深めながら、カフェタイムで憩いのひとときを♪

PRODUCED BY CAFE PHALAM

「朱雀シネマ CAFÉ」は地元の Café Phalam 様にご協力いただいております。

立命館大学朱雀キャンパス公開講座
シネマで学ぶ「人間と社会の現在」

シリーズ13

父親と発達障がい－そだつ、旅立つ、ささえる－

今回は、シリーズ７にひき続いて発達障がいをとりあげます。子どもの自立と家族の絆を考える企画の第２弾です。父が子に教えてやれることは何か、遺してやれるものは何か、父子関係を切り口に、社会のなかの、家族のなかの発達障がいを考えます。新しい関係性への希望を考えます。対人援助学の視点から応用人間科学研究科にご協力をいただきます。



9月15日(土)　ものすごくうるさくて、ありえないほど近い

2005年に発表され、「9・11文学の金字塔」と評されたジョナサン・サフラン・フォアによるベストセラー小説を『リトル・ダンサー』『めぐりあう次官たち』のスティーブン・ダルドリー監督が映画化。

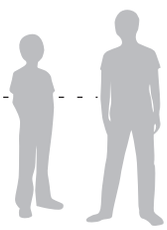
「独特なものの見方をする」という才能をもった少年オスカー。愛する父を9.11のテロで突然失った悲しみから、再び歩き出し、「生きる」ことを取り戻していく姿を描いた感動作。

脚本は『フォレスト・ガンプ 一期一会』のエリック・ロス。オスカーの父親役にトム・ハンクス、母親役にサンドラ・ブロックらアカデミー賞俳優がそろう。

ゲスト：**（調整中）**

聞き手：**中村　正**（なかむら ただし）

立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授。専門は、臨床社会学、社会病理学、男性学。
『家族のゆくえ』（人文書院）、『対人援助学の可能性―「助ける科学」の創造と展開』（福村出版）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。



10月20日(土)　海洋天堂 Ocean Heaven　★この日は特別ゲストを予定しています

特別ゲスト！


(C)2010.Nice Select Limited.All Rights Reserved.

14年前に妻に先立たれた水族館員のワン・シンチョンは自閉症と重度の知的障がいをもつ息子のターフーと慎ましく生活していた。そんなある日、シンチョンは医師から自分が癌に侵されており、余命幾ばくもないと宣言される。

世界的なアクション俳優、ジェット・リーがその脚本に惚れ込み、ノーヒーロー、ノーアクション、ノーギャラでの出演を熱望し話題となった作品。監督は『北京ヴァイオリン』や『北京の恋―四郎探母』で脚本を担当したシュエ・シャオルー、音楽は久石譲が手がけている。

ゲスト：**薛暁路**（シュエ・シャオルー）氏

北京電影学院 映画・文学学科にて脚本と映画理論を学ぶ。シドニー工科大学でMBAを取得。
映画脚本は多数を手がけているが、特に『北京ヴァイオリン』は、サン・セバスチャン国際映画祭で最優秀監督賞と最優秀主演男優賞をダブル受賞するなど、各地で高い評価を得た。本作で映画監督デビュー。第13回上海国際映画祭メディア賞部門にて作品賞と新人監督賞を受賞した。

聞き手：**荒木穂積**（あらき ほづみ）

産業社会学部・応用人間科学研究科教授。専攻は発達心理学。研究テーマは、人間発達における質的転換期の研究。『発達診断と障害児教育』（青木書店）、『乳幼児期の自閉症スペクトラム障害ー診断・アセスメント・療育』監訳（クリエイツかもがわ）。

12月1日(土)　音符と昆布

『東京の嘘』『WHITE MEXICO』の井上春生監督による、突然出現した姉と次第に心を通わせていく妹の姿を優しく見つめる家族の物語。

駆け出しのフードコーディネーター小暮ももは、古びた大きな一軒家に父親・浩二と二人で暮らしていた。浩二がパリへ出かけて不在中、突然姉と名乗る女性かりんが現れる。かりんは自閉症の1つのタイプである“アスペルガー症候群”で、姉妹は意思の疎通ができないまま共同生活を始めるが…。



演技派・池脇千鶴が破天荒な姉のかりんを演じ、妹もも役の市川由衣と絶妙なかけ合いを見せている。

ゲスト：**井上春生**（いのうえ はるお）氏

同志社大学法学部卒業後、東映京都撮影所で深作欣二監督、降旗康男監督らに師事。コマーシャルでは2001年資生堂CM「おもてなしの国から」篇や2006年資生堂CM「TSUBAKI春宣言」篇などで多くの受賞歴がある。『WHITE MEXICO』や『東京の嘘』などの映画やテレビなどの商業作品を作る傍ら、アフガニスタンの映画監督と交流を図り映画を復興に結びつけるなど多方面で活躍している。

聞き手：**谷　晋二**（たに しんじ）

文学部・応用人間科学研究科教授。日本行動療法学会専門行動療法士。研究テーマは、発達障がいのある子どもとその家族の包括的支援、応用行動分析における対人援助。『自閉症、発達障害児のためのトイレットトレーニング』翻訳（二瓶社）。



主催：立命館大学
共催：京都シネマ
企画：立命館大学大学院応用人間科学研究科
企画協力：立命館大学社会連携課・立命館大学人間科学研究所
協力：ワーナー・ブラザース映画、クレストインターナショナル、エビックレコードジャパン
企画コーディネート：　中村正（立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授）

お問合せ先
立命館大学 社会連携課
〒604-8520　京都市中京区西ノ京朱雀町1番地
TEL：075-813-8247　FAX：075-813-8167　E-mail：cinemas@st.ritsumei.ac.jp
URL：http://www.ritsumeihuman.com